

第 1 章 業務概要

1. 天井絵画修復の経緯

1-1. 創建当時の天井絵画について

迎賓館赤坂離宮は、皇太子明宮嘉仁親王、のちの大正天皇のための御住居（東宮御所）として、宮内省内匠寮技監片山東熊の設計によって、明治42年に建設された大規模な宮殿建築である。我が国の明治期から戦前を代表する建築のひとつで、近代の建造物としては初めて、平成21年12月、「旧東宮御所（迎賓館赤坂離宮）」として国宝に指定された。

ネオバロック様式の宮殿として建てられたこの建物は、室内装飾の完成度にもその特色がある。各部屋は、部屋ごとに「仏国十八世紀末式」、「アンピール式」、「アンリ二世式」、「ムーリッシュ式」といった様式が用いられ、当時のヨーロッパの装飾様式の中に、部分的に日本在来の美術様式を取り入れながらも、全体として調和した室内装飾となっている。特に部屋ごとにモチーフの異なる華麗な天井絵画は、室内装飾の大きな特色となっている。

各部屋の室内装飾の概要については、宮内庁所蔵の『東宮御所御造営誌』に記述がある。それによると、2階は、朝日の間、羽衣の間をはじめとした各室に、1階は、東西御座所など各室に天井絵画が貼り付けられていたことがわかる。

天井絵画の作者については、「仏国名家」、「仏国名手」といったフランス人画家によって描かれたことが記述された部屋が7部屋ある。今回の対象である45号室については、「装飾ハ仏国十八世紀末式ナリ天井ハ中央ニ仏国名工ノ画ケル油絵ヲ貼付ス図ハ花鳥ニ楽器ヲ麗シク写出セルモノニシテソノ周辺ニハ石膏モテ金箔模様ヲ施セリ」と、フランス人画家の手によるものとされている。

『東宮御所御造営誌』では、特定の画家の名前については、朝日の間のみ、「仏国名画師『ペルツ』ノ監督ノ下ニ諸名流カ丹精ヲ抽テ画ケル所ノモノナリ」と、「ペルツ」という画家が指揮したことが記されているが、現在までの研究において「ペルツ」の詳細については明らかにされていない。

今回、文献調査によって新たに天井絵画の輸入の際の領収書類が発見された。宮内庁宮内公文書館所蔵の『明治三十九年臨時費東宮御所建築費三十五』に45号室の天井絵画の領収書がある。それによると、この天井絵画はパリのL. ALAVOINE社のフルディノア（H.

FOURDINOIS）から購入し、1906（明治39）年1月8日付けで3000フランを支払っていることが明らかになった。

既往の研究によると、L. ALAVOINE社は、パリで室内装飾全般を扱う業務をおこなっていた会社である。アンリ・フルディノア（1830-1907）は、フランス人家具師であり、『東宮御所御造営誌』の「叙勲者」の項に明治40年3月に「叙勲五等旭日章」との記録のある人物である。領収書類の他の記録から、各部屋の家具や石膏装飾等の多くもL. ALAVOINE社を通じて購入していることから、天井絵画も室内装飾の一部として注文され、この会社を通じて購入したと考えられる。しかし、L. ALAVOINE社がどの画家や工房に発注したかについての記録は無いことから、「ペルツ」をはじめとする画家の詳細については、現在のところ不明のままである。

1-2. 過去の修理履歴

昭和42年に赤坂離宮を改修して迎賓館に充てることが閣議決定されたことを受けて、建築家村野藤吾の設計協力、建設省官庁営繕部の設計管理のもと、迎賓施設としての大改修（以下、「昭和の大改修」）がおこなわれ、昭和49年に完成、迎賓館赤坂離宮が設置された。

昭和の大改修の記録である『迎賓館赤坂離宮改修記録』には、大正11年に部分修理を経ているという記述がある。これは、大正11年4月に赤坂離宮でおこなわれた英国皇太子接遇に際して、宮内省内匠寮による大規模な準備工事が行われた際のものである。天井絵画修復は、東京美術学校教授・岡田三郎助に委嘱され、修復は岡田と2人の助手が担当した。昭和の大改修の際の調査によると、2階の朝日の間、花鳥の間、羽衣の間、東御学問所、東一の間に修復の痕跡が残されていることが指摘されている。英国皇太子接遇の際に使用されたのは、主に東側の部屋であったことから、今回対象となった45号室については、大正11年の部分修理はおこなわれていないのではないかと考えられる。

昭和の大改修においては、東京藝術大学・寺田春弼教授のもと、天井絵画の大規模な修復（以下「昭和の修復」）がおこなわれた。『迎賓館赤坂離宮改修記録』の「第4節 天井絵画」より、概要をまとめる。

状態調査の結果、昭和45年度に、主要な室の天井絵画を復元して建築外観とともに保存することが決定され

た。試験改修を除く修復の工期は昭和45年度から48年度の4か年で、東京藝術大学の寺田研究室を中心に、画家や大学院生など、延べ6000人が参加した。その間に、各室、延べ664.8平方メートルの天井絵画と額絵9点が修復された。朝日の間の前のホールには9面の天井絵画があったが、荒廃が激しく復元不可能な状態であるとして、8面は白地とし、中央の1面約30平方メートルは、寺田教授によって新規作成された。

戦災の焼夷弾による破損のほか、戦後の維持状態が悪かったこともあり、天井絵画の損傷は大きく、また、天井絵画の貼り付け方法として、木摺りにカンバスが貼り付けてあることから、木摺りの隙間に沿って、汚れや破れが生じていた。

2. 昭和の大改修時における天井画修復記録

45号室の修復内容については、次のような記録がある（27号室と面積と仕様が同じため、45号室と27号室の修復はまとめて報告している）。

昭和の改修時における天井画修復記録のうち、「27・45号室 天井画修復記録」より転載。

* 報告内容に関しては、原本の記述を忠実に再現したが、形式は適宜、改めて掲載した。

■天井画図様

45号室 花鳥、楽器図様の油彩画

27号室 天井画は曲面図

■状態調査記録

• 天井裏の状態

塵埃堆積多く、滞湿状態で経過している。

• 下地木摺の状態

45号室 長さ424cm 幅5.5cm 64本

27号室 長さ372cm 幅5.5cm 51本

隙間1～2mmで平面性を失っている。

• 画布の状態

(イ) 麻は亜麻、フランス製 中目

(ロ) カンバス地の接着状態は27号、45号室とも木摺面に直付けで、41号室天井画の施工法より略されている。

(ハ) 木摺の固定は必ずしも密着しておらず、釘の緩み

が各所にあつて、これが画面に突出部を形成しているので、カンバスの該当部分を切開して打ち込みをしなければならない。

(ニ) カンバスの老化は場所によって差があり、破れなども雨漏り部分に片寄って起こっている。

• 絵画面の状態

(イ) 絵具層の剝離・剝落・亀裂その他の損傷。

(ロ) 経年による古色は正常であるが、脱脂性褪色は全面に起こっている。

(ハ) 汚染は41号室天井画よりやや少ないが、定着性の強いものである（空気性汚染、浸出性汚染、異物付着タールなど）。

(ニ) 27号室天井画の金泥使用部分の洗浄は、特に留意する必要があるため、特殊にその部分を被覆し、再洗浄を要する。

• 損傷度判定

両室天井画とも災害症状大である。後補の有無は27号室天井画には判定されるが、45号室天井画の場合はない。

■作業工程

- 一、現状記録写真撮影
- 二、塵埃除去
- 三、接着（釘錆の処置含む）
- 四、清拭及び洗浄
- 五、塑型剤充填
- 六、補彩
- 七、ワニス・コーティング
- 八、完成記録写真撮影
- 九、その他記録資料作成

■工程内容

一、現状記録写真撮影

27号室（45年7月13日） 45号室（45年7月6日）
修復前及び修復中の画面状態（作業状態）の記録

• 修復前 NF-J120 TX-120 EX-120

（27号室）全図1/4 1/12分割図

（45号室）全図1/2 1/12分割図

全紙判 ベタ焼き カラースライド

• 修復中 TX-120

天井木摺打ち込みの鉄釘突出及び錆浸出につき釘打

ち込みのための切開図 ベタ焼き
(記録写真資料 E-27 J-45 参照)

• 使用資材 器材

カメラ ZENZA BRONICA-S2

レンズ NIKKOR-P 1:2.8 F=75mm

ZENZANON 1:3.5 F=150mm

NIKKO-R-H 1:3.5 F=50mm

ランプ アイランプ PRF 500W (散光)

PRS 500W (集光)

PSR 500W (カラー)

フィルム FUJI NEOPAN-F J120

KODAK TRI-XPan TX120

KODAK EKTACHROME-X EX120

二、塵埃除去 (dusting)

画面表層に付着したごみやちり等の塵埃を、無糖パンにて吸着し除去する。

三、接着 (affix)

Resin wax による接着。所定の Resin wax のアイロニングにより溶解塗布し、症状箇所にてその浸透をはかる。余分な浸出 wax は Xylene により除去清拭する。フェイシング用紙は草花紙を使用。

(1) 絵具層の剝離・剝落・亀裂部分の接着。

(2) キャンバスの剝離部分の接着 (切開法による)。

(3) 釘錆の処置及びそのためのキャンバス切開箇所の接着。

* 45 号室天井画には野縁に打ち込んだ釘が緩みで木摺板上に付き出し、且つ錆を発生させているため、後刻酸化鉄の着色成分が絵画面に浸出影響する恐れがある。従って該当箇所キャンバスを切開し、釘頭の打ち込みとアルミ箔被覆を施した。のちキャンバス切開箇所を Resin wax により接着。27 号、45 号室天井画と 41 号室天井画のキャンバス接着法と異なり、工程に手抜きが認められ、これがための災害であることが判明した。

• Resin Wax 組成

Dammer gum 120g

Bees wax 180g

B3 パネル 1 枚分

四、清拭及び洗浄 (cleaning)

ammon cleaner (ペースト状) による洗浄。ammon cleaner の主成分である ammonia (アルカリ性) の鹼化性により画面表面の老化油樹脂、煤油煙、塵埃等の汚染部分を、リムーブさせて除去清拭する。

turpentine 併用。27 号室天井画は彩画に当って金泥が使用されているため、原形金泥の発色を維持する必要上、金泥彩色部分を膠液にて被覆養生したのち、ammon cleaner により cleaning する。その後被覆膠は、温湯により除去清拭する。

その他、調整洗浄 (第 2 次) の実施。

• 養生膠濃度 鹿膠 25g / 水との総量 250cc

• Ammon cleaner (170)

組成	Ammonia water (28%)	15g
	Bees wax	50g
	Turpentine	150g
	水	30g

(注) 熱処理によりペースト状にして使用する。

汚染度の度合いに応じて cleaner 組成は調整される。

五、塑型剤充填 (masticage)

絵具層のロス箇所にて所定の塑型剤を充填して、画面と同一平面状に基底物 (補彩下地) をつくる。所定の木べらを使用して充填。前処置として充填箇所に、塑型剤の固着力とその安定を期すために膠液を塗布する。又後処置として充填塑型剤の吸水水性をなくし絵具層と同質性にするために Retoucher を塗布し、乾燥後 Fiel を塗布した。

• 塑型剤組成 (27 号室・45 号室共通)

鹿 膠 10g : 水 90cc

zō-stone 50% : kaolin 50% (体積比)

Titanium KR380 少

* その他 45 号室使用塑型剤

上記組成に Rawumber (NEWTON) を少量添加して地色部分の主として亀裂箇所に充填する。

六、補彩 (Retauch)

水彩絵具による (グアッシュ) 補彩。溶剤 (界面活性剤) として Ovgall (fiel) を使用。塑型剤充填箇所 (完全乾燥後) ・褪色・変色・変質箇所、黒い斑点、線条の汚染箇所等の補彩。

上記水彩絵具による下地補彩実施後、完全乾燥を待って、45 号室天井画は平面図様部分を油絵具により全面被覆。27 号室天井画は、油絵具により一部被覆する。画面中央部分の水彩絵具にて補彩した地色上に、補彩をおぎなう意味で、所定の油絵具 (別紙参照) を、それぞれのパートに適した色相・明度・彩度の色調に混色調整して、豚毛油彩筆にて、よくしごくように、か

すれるように被覆 coating した。展色剤、溶剤（油樹脂）類は一切使用せず、チューブからしぼり出した油絵具を直接パレット上でパレットナイフにてよく練りあわせ、混色して、その上に Almina white #3000 をわずかに湿潤する程度の画用 poppyoil で練りあわせたものを添加し、さらによく捏練して使用した。

七、ワニス、コーティング（Surface coating）

画面保護と発色を維持し促進するために、所定の varnish を画面全面に薄く均衡に平滑さに留意して coating した。

- ワニス組成（27号室・45号室）

Retoucher (HOLBEIN)	100cc	
Bees wax	10g	} × 6 (使用量)
Almina white	5g	
α-pinene	30cc	

（註）過度の光沢をさけ、最低のぬれ色、発色（艶）をもたせるように処方した。

八、完成記録写真撮影

修復後の完成状態の記録写真撮影。使用資材、器材は現状記録写真撮影と同様 一、項参照

- 修復後 NF-J120 EX-T120 全図
ベタ焼き カラースライド
（記録写真資料 E-27 J-45 参照）

九、記録資料作成

測定図面、作業日報、資材配合調整、作業工程計画及び記録表、修復記録 その他。

- * 補記（六、補彩）……27号室使用油絵具（NEWTON）

Flak white	} + Almina white #3000 (poppy oil)
Raw umber	
Burnt sienna	
Naples yellow	
Vilidian	

- * 付記……全行程中完成迄、カンバスの誘発剝離に留意し作業をすすめた。

■その他

- 仮施設設

- 仮設床

天井絵画全面積に対して1800下の高さに平滑な床を設置。仕様は清水式枠組足場上に100×100（松）を@900に並べ、足代板（ア40）を透間無く敷き、

釘打ち止めとし、さらにラワンベニヤ（ア4mm）を釘打ち貼りとする。

- 照明

東芝クールビーム（フラット）10ヶ 100V-150W
アイリフレクターランプ（フラット）2ヶ 100V-500W

- 作業椅子

リクライニング作業椅子（特注）4脚使用。
（27号室、45号室間を移動して使用する）

- 換気装置

強力排気ファン 200V 3.7KW 使用。

- その他防災処置

塵埃除去作業／ガーゼ・マスク・TS No.125 メガネ
洗浄作業／TS式 No.GM-36 防毒マスク（無機性
ガス吸収缶）

ポリエチレン手袋・TS No.125 メガネ

接着作業／TS式 No.GM-36 防毒マスク（有機性
ガス吸収缶）

ポリエチレン手袋・TS No.125 メガネ

（註）27号室、45号室天井画修復作業は、同期日内に並行して、又は交互に実施した。従って修復記録も併記した。

■所要（付記）

- 所要時間 昭和45年7月6日～昭和46年3月29日。
約9ヶ月
- 所要延人数 約830.5人
- 1㎡当り所要 約21.3人

3. 「迎賓館の改修に関する懇談会」の設置

迎賓館としての開館後は、計画的に建物の維持管理をおこなってきた。接遇上の制約および老朽化や、社会の変化への対応のため、平成18年から21年に、建築及び設備の大改修（以下「平成の大改修」）がおこなわれた。しかし、天井絵画、裂地、シャンデリア、家具調度品などの工芸美術に関しては、修繕がおこなわれておらず、汚れ、損傷などが見られるようになった。昭和の改修から40年を経て、国公賓の接遇に支障をきたす段階まできているものもあることから、「迎賓館の改修に関する懇談会」（以下「懇談会」）を設置し、専門家の意見

を聞き取り、今後の改修、および保全計画をまとめることとした。座長は、鈴木博之迎賓館顧問（東京大学名誉教授・青山学院大学大学院総合文化政策学部教授）、委員構成は次のとおりである。

「迎賓館の改修に関する懇談会」

（座長）

鈴木 博之 迎賓館顧問
青山学院大学大学院
総合文化政策学部教授

（委員）

藤岡 洋保 東京工業大学大学院
理工学研究科建築学専攻教授
木島 隆康 東京藝術大学大学院
文化財保存学保存修復油画研究室教授
山梨 絵美子 独立行政法人国立文化財機構
東京文化財研究所 企画情報部副部長
国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長
内閣府迎賓館次長

（オブザーバー）

文化庁

懇談会での議論を経て、将来的な本格的な修復をめざし、比較的小規模な45号室において、天井絵画の試験修復を行うこととなった。

試験修復に際しては、「天井絵画専門部会」（以下「専門部会」）を設置した。東京藝術大学大学院文化財保存学保存修復油画研究室・木島隆康教授を部会長とし、委員構成は次のとおりである。

「迎賓館の改修に関する懇談会・天井絵画専門部会」

（部会長）

木島 隆康 東京藝術大学大学院
文化財保存学保存修復油画研究室教授

（委員）

歌田 眞介 東京藝術大学名誉教授
鈴木 博之 迎賓館顧問
青山学院大学大学院
総合文化政策学部教授
森田 恒之 国立民族学博物館名誉教授
愛知県立芸術大学客員教授

山梨 絵美子 独立行政法人国立文化財機構

東京文化財研究所 企画情報部副部長

国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課特別整備室長

内閣府迎賓館庶務課長

（オブザーバー）

文化庁

試験修復では、修復内容について、各段階において指導を仰ぎながら修復を行うこととした。

4. 業務データ

業務名：迎賓館天井絵画修復（11）業務

履行期間：平成23年12月17日から平成25年1月31日

発注者：国土交通省大臣官房官庁営繕部

受注者：有限会社修復研究所二十一

契約形態：企画競争入札（役務契約）

＊公募要領で事業の予定金額を公表した上で、応募者が修復に関する企画書を提出し、企画内容を修復の専門家が審査し、最も高得点の者を随意契約の相手方として決定している。

5. 実施工程表

次頁の業務実施工程表参照。

6. 業務の進め方

- 1 受注者が各作業工程で計画書・報告書を作成し、発注者に提出した。
- 2 懇談会・専門部会が計画書・報告書の内容確認後、作業に対する指示を行った。
- 3 指示事項に沿って、計画書・報告書を修正し、作業に反映させた。

＊作業中も必要に応じて、懇談会・専門部会の立ち会いのもと、現場での作業内容や方針を確認した。

業務実施工程表

業務名称 迎賓館天井絵画修復(11) 業務

業務種別	平成23年12月		平成24年 1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		平成25年 1月									
	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20	10	20								
修復工程	作業準備期間						修復作業												報告書作成						(抜粋版作成) (印刷)											
事前準備	業務計画書作成		使用資料、機材、道具準備		事務所設置																															
事前写真撮影																																				
⑤事前調査			現地調査 写真撮影				天井絵画調査 写真撮影																													
①浮き上がり接着									絵具層接着作業																											
②画面汚れ洗浄									汚れ洗浄																											
旧ワニス・旧補彩洗浄											旧ワニス・旧補彩洗浄																									
③剥落部の充填整形と 木摺の固定													充填整形 (木摺固定)																							
④保護ワニス塗布 補彩													ワニス塗布				補彩・ワニス塗布																			
⑤事後写真撮影															事後調査 写真撮影		写真撮影																			
分析調査							試料採取		成分分析																											
修復報告書																	報告書作成 DVD作成		印刷・製本						抜粋版作成		印刷・製本									
打ち合わせ説明	12/26		1/13 打ち合わせ		飯政 養生について		事前調査、 撮影について		作業予定について		作業の進捗状況 について		状況説明と作業予定 について		作業の進捗状況 について		状況説明と作業予定 について		7/30 専門部会 検査		仮設撤去（別途）		報告書内容確認		報告書提出		報告書内容確認		報告書提出		11/22 専門部会 検査		抜粋版内容確認			
検査									既済 検査										既済 検査												完了 検査					

